

# 令和2年度第1回古賀市文化財保護審議会

## 会議次第

令和2年10月9日（金）  
14時00分から  
リーパスプラザこが交流館  
103洋室

1. 開会の言葉
2. 教育長あいさつ
3. 委員任命、自己紹介
4. 会長、副会長、議事録署名委員選出
5. 会長あいさつ
6. 議事
  - (1) 古賀市指定文化財に関する調査審議  
案件：五所八幡宮の大般若波羅蜜多經
7. 報告事項
  - (1) 令和2年度文化財関係事業について
    - ①船原古墳調査・活用事業
    - ②開発に伴う受託調査
    - ③福岡県指定文化財「阿弥陀如来像板碑 附 薬師如来板碑」の保存修理
  - (2) 令和2年度歴史資料館事業について
8. その他
  - (1) 令和2年度第2回文化財保護審議会開催日程について
9. 閉会の言葉

6. (1) 古賀市指定文化財に関する調査審議  
案件：五所八幡宮の大般若波羅蜜多經

## 五所八幡宮の大般若波羅蜜多經に関する調査

### 1. 五所八幡宮について

古賀市南部の青柳(青柳松亀山に鎮座)に所在する五所八幡宮は、市内随一の大社で、「鷹野神社」・「若宮八幡宮」・「若八幡宮」などと称したこともある。名称の由来である五所は応神天皇・神功皇后・玉依姫命・墨江三前神・保食神の5柱である。氏子は青柳・青柳町・小竹であったが、現在は青柳・青柳町となっている。北朝の暦応年間(1336～40)の争乱および天正年間(1573～92)の争乱により社伝等を悉く失い、創建や沿革については不明とされている。なお、社説には神功皇后が竜輿を休められた所と伝えられ、また、立花道雪の頃までは、社領200石、神田2町余を有していたと伝わるが、今は御供田、宮田、注連田、萩川田、御化粧田など名のみ残る。

中世期の資料としては応永年間(1394～1428)に奉納された「大般若波羅蜜多經」奥書記述〔永禄13年(1570)に欠巻を補完〕、明応2年(1493)の「大内義興奉納宝殿棟札」(周防守護、ただし大内義興の名は見受けられない)や天正11年(1583)の「戸次鑑連(立花道雪)奉納社殿棟札」(糟屋立花城主)の3点が挙げられる。このうち「戸次鑑連奉納社殿棟札」には「糟屋郡院内青柳村延命山願成禅寺住山三晋字珪」「仏壇施主 飯田杵助夫婦」とあり、青柳字木梨にあったとされる願成寺が五所八幡宮の別当寺であったこと、有力檀家に飯田氏がいたことがわかる。三晋字珪についてはこの他に市指定「色姫の墓」墓碑や石瓦の「清水家文書」などにその名を見ることができる。また、彼は天正19年(1591)に柳川城主立花宗茂に請われて筑後国三潞郡西牟田靈鷲寺(筑后市鷲寺)へ転出している。靈鷲寺は現在小郡市松崎にあり、臨済宗南禅寺派瑞松山と号している。

黒田氏の福岡入部以降、五所八幡宮は藩による社殿の建立や参勤交代・野出の際の社参・代参を受けるなど、篤い崇敬の念を受けた。藩政期には両糟屋・宗像3郡の祈願所と定められ、元日より五日まで、郡中大庄屋以下が参詣して五穀豊穰と息災を祈願した。また国家的憂慮や天変地異の際にも藩主以下の災難除去の祈願を受けていた。

明治5年(1870)に村社に列せられ、日露戦争以降は糟屋・宗像郡の出征軍人の国威宣揚・武運長久の祈願を受けていた。経典が発見された大正15年(1926)頃、県社への昇格を申請しており、昭和4年(1929)郷社に列されている。

### 2. 大般若波羅蜜多經

大般若波羅蜜多經は全16部(会)600巻に及ぶ膨大な般若經典群の集大成で、玄奘三蔵(602～664)が最晩年の663年に完訳したものである。日本に伝わった経緯は定かではないが、大宝3年(703)には大般若經を読み上げた記録があり、書写したものでは、天武天皇の孫にあたる長屋王(684～729)が和同5年(712)に発願した通称「和

同経」と呼ばれるものがある（長屋王は神亀5年（728）にも発願を行っており、こちらは「神亀経」と呼ばれる）。

五所八幡宮に伝わる大般若波羅密多経は、現在同所と佐賀県嬉野市上不動の慈眼庵（嬉野市下宿の臨済宗南禅寺大寧山派瑞光寺の隠居寺）に伝えられている。すべて手書きによる写しで、大きさは幅 8.5cm・長さ 24cm ほどの折本。底本は思溪版蔵経と見られ、表紙は淡黄色地に茶褐色の草模様をあしらう（嬉野市飯田家に伝わる高貴な者の手によるものとされるものは錦を表装）。奉納者の背景および奉納の目的は特定できないが、経典の奥書によれば、当初応永年間（1394～1428）に浄書・奉納され、永禄 13 年（1570）春、天下に疫病が流行（史書に記載なし）するに及び、息災祈願のため欠巻を買得施入したようである。奥書には五所八幡宮を指すと思われる「若宮八幡宮」「若宮四所大菩薩」の記述があり、欠巻を買得施入したものには経典と共に本尊を奉納したと読める。また「江湖」という禅宗の用語が見られ、当地域における禅宗の普及年代、ひいては五所八幡宮別当寺・願成寺の存続年代を推測する資料ともなりうる。五所八幡宮の歴史を知る上で年代の分かる最も古い資料であるとともに、市内に伝えられている典籍の中でも古いものに属する。

この経典は、戦国末期の騒乱により所在不明となっていたが、その存在は五所八幡宮側には古記録により伝えられていたという（『筑前國續風土記付録』等には記載なし。また五所八幡宮が現在所持する文書類の中にもこのような古記録は見当たらない）。経典の所在が再確認されたのは大正 15 年（1926）9 月のことで、発見の経緯について『福岡縣神社誌』（1941）や「古賀町広報」（1958 年 12 月）、『青柳村誌』（1973）によると以下の通りとなる。

佐賀県藤津郡西嬉野村（現在は嬉野市）の臨済宗南禅寺大寧山派瑞光寺の隠居寺である同村不動山字上不動の慈眼庵に伝わる、古来厳封のまま開くことのできないものとして伝えられていた唐櫃の底板が腐朽したため修理しようとした際発見された。発見された経典は完存のもの 12 冊、痛みが進み巻数や奉納日時が不明なもの数冊であった。経典が慈眼庵へ伝えられた経緯は不明である。慈眼庵では仏典史家の鑑定を依頼することにし、門徒総代であった飯田元左衛門氏が福岡市在住の木下讚太郎氏のもとを訪ね、木下氏から五所八幡宮へ連絡があり、その所在が知られることとなった。

門徒総代の飯田氏は「献納の詞」（昭和 34 年・1959）によると、「天正十一年戸次鑑連奉納宝殿棟札」に見える「飯田杢助」の子孫にあたるようである。また「献納の詞」には、「寛政の始めに御本尊様及び大般若経を修理され、其内の修理不能の分は粗末にならぬ様とて、慈眼庵本堂横の灰塚に納め碑を建立して、飯田福右エ門施主とするされてあります。」とあり、大般若波羅蜜多経が慈眼庵において寛政初年（寛政年間・1789～1801）に修理されたことが記されている。

当時八幡宮側は宮司および氏子総代が慈眼庵へ赴き、経典の調査ならびに神社への奉納交渉をおこなった様であるが、「九州日報」大正 15 年 9 月 12 日付、「珍史料の写経

と九州一の棟札」という記事の中で木下氏は、「前記の一筆一卷で浄書した大般若波羅密多経は、五所八幡宮を始め付近郡村の社寺には現存していない。筑前青柳より社僧の因縁地たる肥前藤津郡に移動したもの」と見られている。慈眼庵では、「壇信を始め有志者協議の上、寺宝としてこの写経を永久に保存することになった。」と語っている。

この記事から木下氏の調査においても写経の移動の経緯は詳らかにならず、当時の奉納交渉も慈眼庵での保管ということで落ち着いたことが窺える。

大般若波羅密多経の五所八幡宮への奉納の経緯については「古賀町広報」（1958年12月）に詳しい。戦後、当時の五所八幡宮官司は独自に大般若波羅密多経が慈眼庵へ伝えられた経緯を調査し、昭和28年頃より慈眼庵との奉納交渉を行なっている。

調査結果の詳細やその論拠は不明であるが、「古賀町広報」（1958年12月）によると、天正14年（1586）8月、薩摩島津氏の大軍が糟屋立花城を攻めた際周囲を焼き払っており、五所八幡宮および別当寺であった願成寺も焼亡の憂き目に遭ったという。その際、五所八幡宮の御神体は社家12代渋田外記大夫則重により御奉遷され、大般若波羅密多経は願成寺住職により守られたという。その後五所八幡宮は社殿の復興もままならず仮殿となり、願成寺も廃寺となるに及んで、筑前早良郡姪浜出身の名僧・石室善玖（鎌倉五山のひとつ・巨福山建長寺の前住、1293～1389）の開基による瑞光寺を頼り移住する際に携行されたと記されている。

この時の交渉の結果、慈眼庵から終始揃いの9巻のうち5巻が奉納されることとなり、昭和34年2月奉納、現在に至っている。また、小山日出男氏の「嬉野の瑞光寺及び慈眼庵をお訪ねして」（平成7年1月の記録・1995）によると、慈眼庵ではこれを期に毎年瑞光寺より僧侶を招いて「大般若経会」が執り行われているとのことである。

### 3. 指定の理由

五所八幡宮に伝わる大般若波羅密多経は、応永年間（1394～1428）に青柳郷にて写経事業が行われ、五所八幡宮へ奉納したものと考えられる。永禄13年（1570）春、天下に疫病が流行したことを受け、息災祈願のため欠巻が補われ奉納されたが、その後、経緯不明ながら、佐賀県嬉野市上不動の慈眼庵へ移動して保存されていたものである。

本資料は、五所八幡宮の歴史を知る上で年代の分かる最も古い資料であるとともに、古賀市内に伝えられている典籍の中では最も古いものに属する。五所八幡宮、そして別当寺願成寺の存続年代を推測する資料でもあり、かつ神仏習合の一面をも伝える貴重なものである。また、兵火を避けるためかその経緯は定かではなく、その背景などについて今少し研究の余地があるものの経典が移動させられていること、そして今日まで保存されていたことなども極めて稀有な例であろう。

なお、奥書記述の永禄13・元亀元年（1570）の疫病流行は全く史書に記載がなく、このことも、資料的価値を高めていると言ってよい。

## 資料

- 1) 五所八幡宮へ奉納された経典及びその奥書等（計5冊）
  - ・ 般若波羅蜜多經 卷第三十  
日本国西海道筑前筈三笠郡内 廣穎  
於青柳郷  
奉施入  
若宮四所（原本聖母の二字訂正あり）大菩薩御宝前也  
干時應永十天癸未林鐘十九日書之
  - ・ 般若波羅蜜多經 卷第一百九  
應永癸未八月廿四日  
釣隱子慶瓚拜書  
永禄十三庚午年春天下一同大疫ス當庄此經斷絶ス云々  
然條一心之志本尊共令買得  
八幡宮ニ寄進畢
  - ・ 般若波羅蜜多經 卷第一百一十四  
日本筑前筈糟屋郡青柳郷内  
奉施入若八幡宮御寶前也  
干時竜集應永十天癸未秀商十日  
結縁拙者防筈江湖口南岩書
  - ・ 大般若波羅蜜多經 卷第一百八十一  
于時応永十二年乙酉七月二十二日  
江州滋賀郡粟津僧定悦書之  
永禄十三庚午年春天下大疫ス当庄ニ此經断ス云々  
然条拙一心之志本尊共令買得八幡宮ニ寄進畢
  - ・ 大般若波羅蜜多經 卷第一百九十六  
応永十五年十月二日青柳之栖雲庵書写之  
願主 一箱四郎
- 2) 佐賀県嬉野市飯田家に伝わる経典及びその奥書等（計2冊）
  - ・ 大般若波羅蜜多經 卷第一百五十五  
（年号氏名なし。表装は錦の表紙で他のものと異なる）  
〔青柳村誌等には「(貼札) 家隆卿 經」と記載されるが、現在は見られない〕  
寸法：縦 23.5×横 8.0 cm。1行 17字  
天地の界線、縦の罫線なし。書体、そして筆致なども他の経典と異なる。
  - ・ 大般若波羅蜜多經 卷第四百十四

(年号氏名なし。表装は錦の表紙で他のものと異なる)

(極札) 嵯峨天皇 経 [極印(琴山-古筆家-)]

折本裏『(「筆者」と記載か?墨消し) 禅樹料紙之旦那慶孝』と記載される  
寸法: 縦 24.5×横 8.0 cm。1行 17字 (巻末付近は 18~19字となっている)

3) 慈眼庵に残されたとされているが今不在の経典及びその奥書等 (計 4冊)

- ・ 般若波羅蜜多経 卷第一百三十六 六十一卷之内也  
于時竜集応永十一天甲申孟輒八日  
右結縁拙者防 江湖野僧口南巖叟出之
- ・ 大般若波羅蜜多経 卷第一百四十一  
応永十一甲申卯月上旬 沙門法源秀
- ・ 大般若波羅蜜多経 卷第二百一十九  
応永二十一年甲午小春晦日 江湖比丘帰一拝書之
- ・ 大般若波羅蜜多経 卷第三百二十一  
右筆者 俊祐  
応永十六巳丑卯月二日

4) その他『青柳村誌』に記載のあるもの

- ・ 大般若波羅蜜多経 卷第十三  
(表紙のみ現存)



## 7. (1) ①船原古墳調査・活用事業

### ア. 調査

#### (ア) 報告書刊行年と内容について

昨年度の谷山北地区遺跡群調査指導委員会において、以下の報告書刊行年とその内容について承認され、現在これに向けて調査を実施している。

令和3年度『船原古墳Ⅲ』：1号土坑以外の遺構と遺物出土状況、出土遺物についての事実報告編

令和5年度『船原古墳Ⅳ』：1号土坑の遺構と遺物の埋納状況検討編

令和7年度『船原古墳Ⅴ』：1号土坑の出土遺物検討編

令和8年度『船原古墳Ⅵ』：科学的調査編、遺跡総括編

※土坑群発見以降に刊行された報告書には以下の2冊がある

『船原古墳Ⅰ』（平成27年度）：古墳群、土坑群の発掘調査成果の報告

『船原古墳Ⅱ』（平成30年度）：1号土坑出土遺物調査成果の概要報告

#### (イ) 出土品クリーニング

昨年度までに馬具等のクリーニングが完了しており、今年度は1号土坑出土の小札甲と冑のクリーニングを実施する。対象遺物点数は472点で、九州歴史資料館にて作業を行なっている。

#### (ウ) 出土品実測

小札甲とこれ以外の馬具等についてそれぞれ実施している。

馬具等については総計590点のうち、昨年度までに270点の実測が完了している。今年度は180点の実測を予定しており、8月末までに49点の実測が完了した。

小札甲については、出土状況、小札甲の各部位の構成、付属具の構成の検討、各小札の形状と孔の位置の確認や計測による型式分類、実測を行なっている。実測作業については今年度257点の実施を予定しており、8月末までに7点の実測が完了している。

#### (エ) 3Dデジタルデータ詳細解析

多種多量の遺物が出土した1号土坑の遺物出土状況の検討及びその図化のために、取り上げ後の遺物のCTデータから作成したSTLデータを遺物出土状況の三次元計測データと統合し、三次元図面（アプリ）を製作している。

また、遺物の形態、構造等の検討のために、CTデータの分析等を行ない、遺物の形状復元データを作成する。今年度は小札甲、冑について実施している。

#### (オ) 出土遺物実測図製図業務委託

昨年度までに実測した遺物のうち、82点程度のデジタルトレースを委託する予定である。



(カ) 遺物付着有機質検討

土坑出土遺物には皮革や木など多量の有機質遺物の痕跡が付着している。それらは、金属遺物とあわせて製品を構成していたものやそれを納めていた容器等の痕跡であり、土坑の遺物埋納状況を検討する上で重要なものと考えられ現在調査を進めている。

今年度は杏葉を中心に繊維、皮革等の詳細な付着状況を確認し、専門家の指導・助言を受けながら検討を進めていく予定である。

イ. 活用

(ア) 出土遺物復元CG作製

調査の過程で得たCTデータ等の三次元データを利用し、遺存状態が悪く実物展示が行えないもの、本来の形等を来館者が理解し難いものについて復元CGを作製し、今回活用に役立てる。成果品は、歴史資料館の来館者が端末で閲覧できるよう展示等を行なう。今年度は冑を対象に復元CGの作成を行なう。

(イ) パンフレット作成

調査が進み明らかになった各遺物の概要をまとめ、普及版として市民にわかりやすいパンフレットを作成する。パンフレットはA4裏表1枚にまとめ、各遺物について紹介するシリーズとして継続して作成している。

今年度は、鳳凰文心葉形杏葉、花形杏葉、金銅製歩揺付飾金具について紹介する予定である。

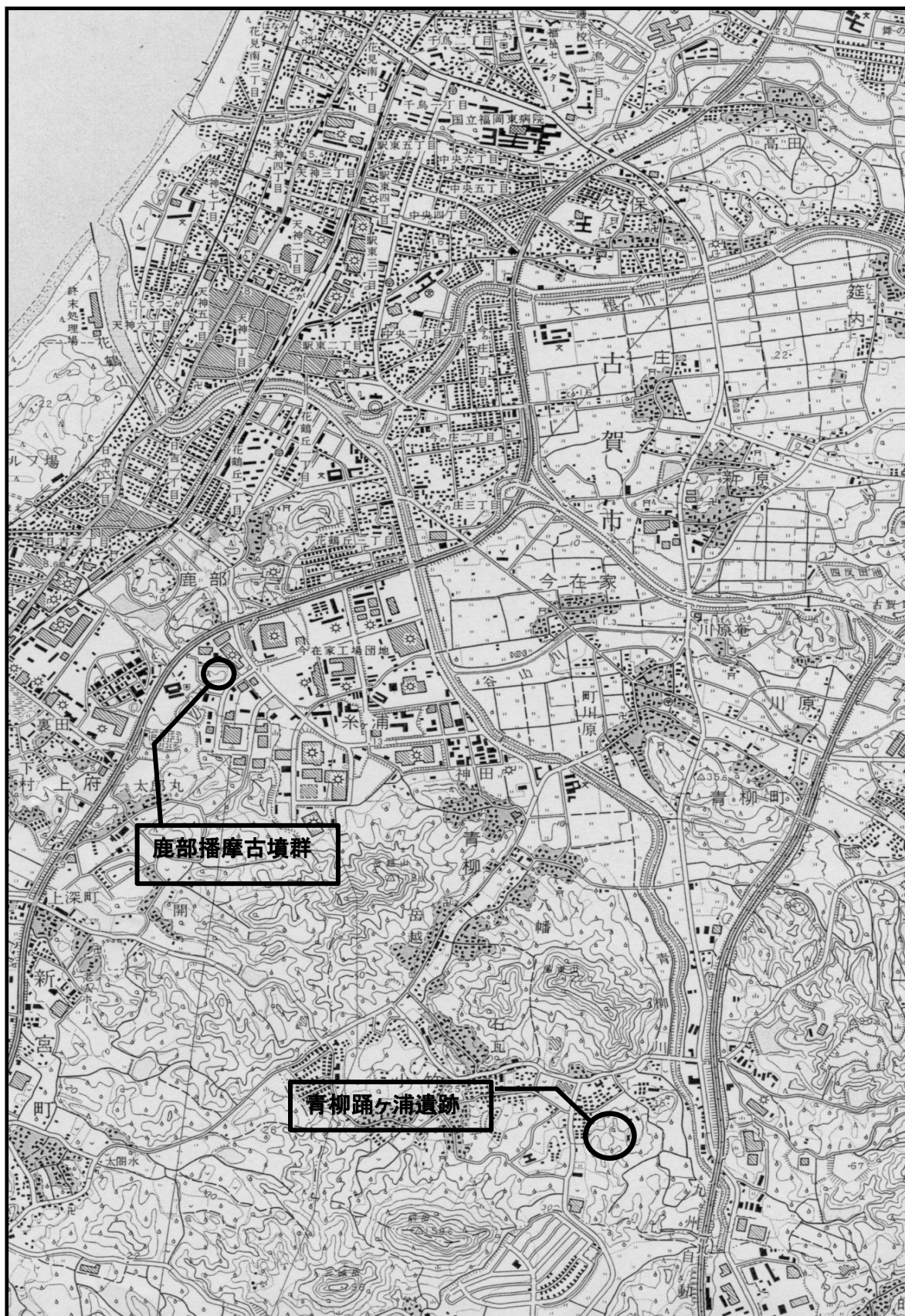
(ウ) 講演会

これまでの調査成果や船原古墳に関する新知見について広く一般に発信するため、専門家を招いて講演会を行なう。後述の展示開催期間中の11月28日(土)に実施予定で、古賀市職員から展示予定の玉虫装飾二連三葉文心葉形杏葉に関する報告を行ない、九州歴史資料館の吉村靖徳氏に船原古墳の被葬者像に関する講演をいただく計画である。

(エ) 展示関係

令和元年度までの調査成果をいち早く市内外に発信するために、古賀市立歴史資料館において展示を行なう。今年度は、玉虫装飾二連三葉文心葉形杏葉を中心とした馬具類について展示する。開催期間は令和2年11月14日(土)～12月20日(日)の予定である。

7. (1) ②開発に伴う受託調査



埋蔵文化財調査位置図 (S = 1 / 25, 000)

## 福岡県文化財カード

ふりがな	あおやぎおどりがうらいせき	市町村文化財番号	
名称	青柳踊ヶ浦遺跡	県文化財番号	
所在地	福岡県古賀市青柳字踊ヶ浦1260の一部、1262、1264、1267-1、1272-3		
遺跡の種類	集落遺跡・古墳・生産遺跡	時代	縄文・古墳・古代
現状	荒蕪地	調査要因	流通団地造成工事
調査日	2019/12/16～2020/7/3	調査面積	約4,000 m <sup>2</sup>
調査主体	古賀市教育委員会	調査者	井英明
所属	古賀市教育委員会		
調査届	元古教文 第760号	埋蔵物発見届	2古教文 第284号
管理場所	(写真) 古賀市立歴史資料館	遺物量	10 箱
	(図面) 古賀市立歴史資料館	備考	
	(遺物) 古賀市立歴史資料館		

### 概要

〔立地〕 古賀市の南部、青柳川の左岸に位置する。調査地は、古賀市の南部、立花山塊から派生する丘陵の一つで、このような丘陵上には、古墳時代に墓域としての土地利用が行われ、多くの古墳が築かれた。しかしながら、一帯は大規模な改変により旧地形を失っており、これに伴い多くの古墳も失われたと思われる。

〔遺構・遺物の内容〕  
 調査地内に二筋の丘陵部が延びるが、いずれも旧地形を失っており、各1基の古墳が残存するのみであった。西側丘陵の古墳は、墳丘を部分的に残すのみで主体部も失われていた。東側丘陵の古墳は、石室を半分以上欠き、架構する石材は玄門天井部のみ、墳丘も失われていた。

丘陵部間の谷部は、遺構面が2面以上形成されていた。もっとも新しい遺構面の利用は、焼成土坑が主体で、これは製鉄関連の遺構か。遺構面の時期は古代頃。これより古い遺構面は、掘立柱建物が並び居住空間としての利用が行われた。この遺構面の時期も古代頃である。もっとも古い遺構面は、落とし穴遺構が分布し、狩猟採集空間としての利用であろう。この遺構面時期は縄文時代頃か。

〔所見及び特記事項〕  
 古墳は、遺跡地の南部に展開していた瓜尾・梅ヶ内古墳群と諸々の基盤を共にしたものと考えられる。したがって、今後、全体観で遺跡の位置づけを行必要がある。

谷部から発見された掘立柱建物の配列は、青柳篠林地区で調査された建物群と似ており、何らかの関連があるのかもしれない。これら建物遺構に関しても、当地の遺跡環境復原のため全体観で評価する必要がある。

〔現状〕調査後破壊



図幅名

古賀

位置

北緯33度41分52.3秒 東経130度28分50.2秒

## 7. (1)③阿弥陀如来像板碑 附 薬師如来板碑保存修理について

### ア. 阿弥陀如来像板碑 附 薬師如来板碑の保存修理事業の概要

古賀市筵内区にある玄武岩の自然石に阿弥陀如来立像と薬師如来坐像が筋彫りされた二基の板碑。仏像線刻の板碑としては大変古く、本地域において強い仏教的基盤があったことが考えられる貴重な考古資料として昭和33年11月13日に福岡県指定有形文化財考古資料(考33号)となった。

二基の板碑は、使用された石材特有の層状節理と風化等の影響で像容表面の摩耗や表面の石材の浮き及び剥落が進んでおり、視認しづらい状態となっている。また、薬師如来板碑を保護している覆屋については、平成30年度に躯体に亀裂が認められ危険であるため早急な対応が必要であった。

このようなことから、令和元年度は薬師如来板碑について、県費補助金を受けて覆屋の補強工事及び板碑の保存修理を行った。令和2年度は二基の板碑について、朝日新聞文化財団文化財保護活動助成を受けて保存修理を実施している。

### イ. 令和元年度 薬師如来板碑保存修理事業

#### (ア)事業内容

福岡県の補助金を受けて実施した。

薬師如来板碑について、クリーニング・亀裂充填・基質強化を行った。また、板碑を保護している覆屋について、補強工事を行った。補強工事と併せ、現在、板碑に対して遮光等が不十分であるため、板碑への日光の当たり方のモニタリング調査を行った上で板碑を適切な環境下で保存できるよう袖壁や軒等を設置した。

#### (イ)実施期間

令和元年9月から令和2年3月まで

### ウ. 令和2年度 阿弥陀如来像板碑 附 薬師如来板碑 保存修理事業

#### (ア)事業内容

朝日新聞文化財団文化財保護活動助成事業により実施。

阿弥陀如来像板碑については、クリーニング・亀裂充填・基質強化・撥水処理を行う。薬師如来板碑については、令和元年度から行っている劣化防止処理の最終工程として、撥水処理を行う。

#### (イ)実施期間

令和2年7月から令和2年9月末まで

#### 【用語説明】

「クリーニング」は、塵芥そして着生生物除去を行う。

「亀裂充填」は、着生生物除去後に確認した浮きに対して、剥離防止を目的に、エポキシ系樹脂を注入する。また、亀裂部分についてはエポキシ系樹脂と岩石を粉砕した「骨材」を混ぜて作成した「擬石材」を用いて表面整形を行う。

「基質強化」は、経年劣化による石材の脆弱化防止を目的に、珪酸エステル系樹脂を塗布含浸する。塗布の際はローラーや刷毛を用いて、石材の樹脂吸収が止まるまで塗布を行う。

「撥水処理」は、石材の水分浸透防止を目的に、シリコーン系樹脂を塗布含浸する。塗布の際はローラーや刷毛を用いて、石材の樹脂吸収が止まるまで塗布を行う。



エ. 写真

薬師如来板碑



作業前



クリーニング・亀裂充填・基質強化後（9月中に撥水処理を実施）



阿弥陀如来像板碑



作業前



クリーニング後（9月現在、劣化防止処理を実施中）



7. (2)令和2年度歴史資料館事業について

■事業計画

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更・中止となる場合があります。

《自然史歴史講座・企画展・展示・講座》

事業名・講師等	開催予定日	内 容	開催予定場所
自然史・歴史講座【体験学習】 「子ども歴史講座2020」	7月24日(金) 7月25日(土)	杏葉づくり 勾玉づくり	歴史資料館 中会議室
自然史・歴史講座【講演】 「立花氏・薦野氏・米多比氏」	未定	講師：中野等氏 (九州大学大学院教授) 立花宗茂と薦野氏・米多比氏	交流館 多目的ホール
自然史・歴史講座【講演】 「戦争は社会をどう変えたか?～戦争と市民社会～」	10月10日(土) 14:00～16:00	講師：有馬学氏 (福岡市博物館長) 戦争と市民社会について	交流館 多目的ホール
自然史・歴史講座【現地学習】 「アフガンに生きる先人の技術～江戸時代の水利技術を学ぶ～」	① 9月26日(土) ② 10月3日(土)	令和元年度延期分 清瀧、山田井堰 ほか	朝倉市 ほか
企画展 「戦争とくらし～庶民から見た戦争～」	10月1日(木)～ 11月8日(日)	戦後75年、戦争についての パネルと実資料展示	歴史資料館 ギャラリー
船原古墳最新情報 「令和2年度 国史跡船原古墳展」	11月14日(土)～ 11月20日(日)	平成31年度までの出土品整理・調査についての解説と実資料を展示	資料館展示室
船原古墳パネル展	8月1日(土)～ 8月29日(土)	初心者向けの船原古墳のパネル展示	歴史資料館 ギャラリー
	11月9日(月)～ 11月27日(金)	船原古墳PRのパネル展示	資料館展示室 市役所市民ホール
子ども考古学講座	10月4日(日)	古代の織物	歴史資料館 中会議室
	11月1日(日)	縄文土器づくり	交流館 工芸室
自然史・歴史講座【現地学習】 「戦争遺跡を訪ねる」(仮)	3月7日(土)	竪坑櫓、大刀洗平和記念館、 大刀洗飛行場跡 ほか	志免町、大刀洗町 ほか
春休みれきし体験パスポート	3月～4月	郷土の歴史を学ぶ	資料館展示室